SORA web magazine 2018.jan. vol.94

Travel

Indonesia Banda Sea

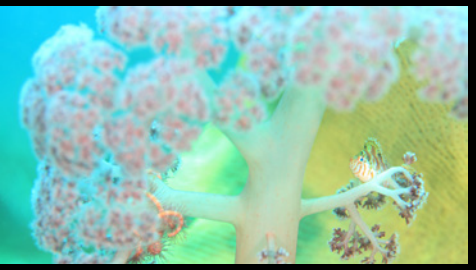
MAP CLICK!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

パヌニーヨット号で行く、バンダ海クルーズ!
ハンマーヘッドシャークが群れる「リング・オブ・ファイヤー」

インドネシアのアンボンは、昨年に初めて取材に行き、その生物層の豊かさに驚いた。手つかずで、まるでおもちゃ箱のような趣きもあるその海は、フォト派ダイバーなら必ず虜になるはず。そんなアンボンの先に、まだ未開の海が待っているという。「リング・オブ・ファイヤー」と呼ばれる火山諸島の周辺には、コンスタントにハンマーヘッドシャークが群れるエリアがあるとのこと。9月半ば～11月半ばまでの期間限定のスペシャルな海に、好奇心旺盛なフォト派ダイバーを満足させるパヌニーヨット号で初取材を行った。

tsumi-shima ダイバーの夢をつみあげていく島 tsumishima.com
We World explorer (株)ワールドツアープランナーズ www.wtp.co.jp
© 2018 World Tour Planners Co.,Ltd. All Rights Reserved.

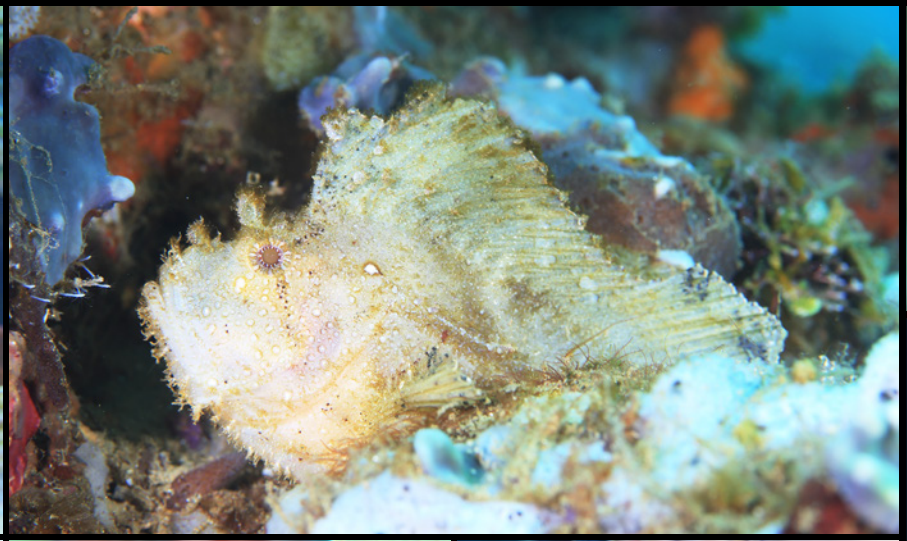


チェックダイブからボロカサゴ！だって、面白い！

インドネシア・バンダ海 Indonesia Banda Sea

羽田空港をお昼頃に出発し、ジャカルタ経由でアンボンの空港に到着。空港から送迎車で近くの港まで移動すると、迎えのディンギーに乗ったパヌニー号のオーナー・ジャクリンが、「黄色いボロカサゴがいるよ!」と満面の笑みでみんなを出迎える。正直、少年のような彼の好奇心が、パヌニー号の一つの大きな魅力であると私は思っている。そして、乗船してダイビングの準備を整え、ブリーフィングを終えて、まず最初に向かったのは、チェックダイブ。船が停泊している近くの桟橋周辺でのダイビングとなった。

チェックダイブを兼ねたファーストダイブは「Laha2」。チェックダイブと言っても、普通のファンダイブで、適正ウェイトかどうか確認してください、程度。緩やかな砂地の斜面を、ゆっくりと直線的に潜っていく。一見何もないように見えるが、あちこちにソフトコーラルやカイメン、イソギンチャクがぽこぽこと生えている。ガイドさんに最初に見せてもらったのが、黄色いボロカサゴ。潜水して10分ほど見せてもらう。他にもカエルアンコウやニシキフウライウオがいると聞いていたが、まずはメインを見せてもらったので、少し自由な視点で撮影。とてもカラフルなイソギンチャクにイソギンチャクモエビがいたので撮影……いつも好んでエビカニは撮影しないのに……。そして、ピンクの小さなソフトコーラルの背景に黄緑色のカイメンがあって、そこにミナミゴンベの姿が……最高のシチュエーション！　そして、小さなパッチリーフでは、タテジマキンチャクダイの成魚と若魚が一緒に居た！　なんとバラエティーに富んだ1ダイブなのだろう！　2ダイブ目も同じポイントへ。カエルアンコウやハナヒゲウツボ、ウミウシなどを見つけてもらい、楽しんだ。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

「リング・オブ・ファイヤー」へ!

夜から翌日にかけて、ボートは8～9時間移動して「リング・オブ・ファイヤー」に到着。「リング・オブ・ファイヤー」とは、円形状になった火山帯で、今回はその円周に沿って移動し、ダイビングをしていく。朝、到着したのは suanggi島。suanggiとは、現地の言葉で「おばけ」という意味らしい。エントリーしたポイントは「pulau suanggi 」。島の周囲のポイントで、リーフを降りていくと、沖合に根が伸びている。そこの水深25mで待っているとハンマーヘッドシャークが現れるという。結果から言うと、一番最初にエントリーしたグループは、ハンマーヘッドシャークの大きな群れを見た。私たちのグループは、少し欲を出して、それよりも潮の流れに逆行した先で狙っていた…。欲を出すとうまくいかない(涙)。それでも、カンムリブダイやイソマグロ、ナポレオンなどと出会う。残念ながら見ることはできなかったが、ハンマーヘッドシャークは確認した。今日から3日間、ハンマーヘッドシャーク狙いのダイビングが続いていく。

2本目は、1本目にハンマーヘッドシャークが見られたエッジに。減圧が許す限り先端で待ったが、そううまくは現れてくれない。よく見ると、眼下に広がる広大で美しいサンゴ礁に気がつき、それを丁寧に撮影した。

インドネシア・バンダ海 Indonesia

Banda Sea

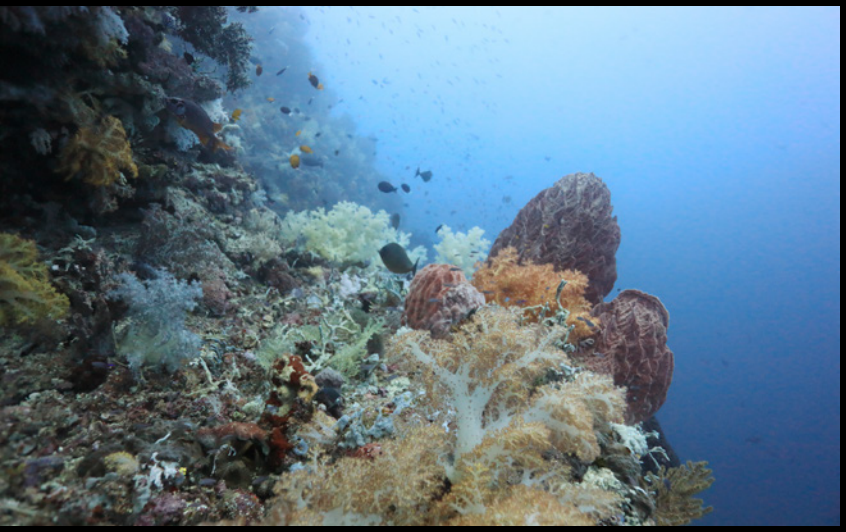
さすが、手つかずのアジアの海！

少し移動して、「batu kapal 」へ。batuは、現地の言葉で岩。kapalは船という意味。確かに洋上に浮かぶ岩は船の形にも見える。島影からエントリーして、周囲の根で潜り始める。最初、ビルのようにそびえる細長い根からスタートする。その根の潮あたりが良い場所には、カスミチョウチョウウオがたくさん群れ、その群れを狙って、カスミアジがアタックを仕掛ける。その根自体もオレンジ色のソフトコーラルで覆われ、タテジマキンチャクダイが彩りを添える。この根だけでも1ダイブ十分に楽しめる。でも、取材取材！と移動を開始。するとカスミチョウチョウウオは、その根だけでなくポイント全体に群れていることに気がつく。別の根でも、大きなウミウチワなどが目立ち、そこにクダゴンベなどの人気種の姿も。ダイビングを終えて本船に戻ると、別のグループはマンタを見たとのこと。今日はなかなかタイミングが合わない。バンダ海も素晴らしくカラフルで生命に溢れていることはわかった。大物は明日に期待（笑）！

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

そして、マジックコーナーへ!

3日の朝、船は更に8～9時間南下して、SARUA島に到着。そして、今回のハイライトであるマジックコーナーへ。いつもブリーフィングには顔を出さないオーナーのジャクリンが、嬉しそうにみんなの前に立ち、ハンマーヘッドシャークの見方をレクチャーしてくれる。よほどこのポイントが好きなんだろう……（笑）。その後にガイドさんからの一般的なブリーフィングがあり、いざ海へ!
本船から眼下に広がる海の色を見て驚いた。インドネシアではあまり見たことがない鮮やかな青だった。そして、ディンギーに乗り込んで、ポイントまで向かう。途中カメラを確認すると、なんとメディアを入れ忘れていた……。朝一が最も狙い目だというのに……なんてことを……慌てて本船に戻って、メディアをセットする。再びポイントに向けて出発し、無事にエントリー。ブリーフィングで聞いていたイメージと実際は違った。どちらかというとただのドロップオフで、その水深20～25mくらいで待つ。最初に1匹現れた。そして、なかなか出て来ない時間があり、一度だけガイドが動いたのでついていくと、そこには、紛れもなくハンマーヘッドシャークの群れが悠然と泳いでいた。ただ撮影するには少し遠い。飛び込んでいくことも可能だけど、みんなの様子を見ながら、それはやめた。まだ始まったばかり。ダイビングを終えて、ディンギーに乗り込むと、ジャクリンが、「水温が温かい。30度もある。本当は25度くらいで、ちょうどハンマーが出てくれるのに……とにかく次に期待しよう!」ということだった。



生き物を待つ
ダイビングを体感する……!

　それから3日間、このマジックコーナーで潜る日々が始まった。2日目の朝、6時にディンギーを出し、エントリー。水深25mで待っていると、頭上に1匹や2匹のハンマーヘッドシャークが現れる。今日は良いタイミングかな？と思うが、待てども群れはやって来ず。そして、減圧不要時間がギリギリに迫ってきたので、水深を上げて待っていると、突然、他のダイバーが動き出す。皆が泳ぐ先には、ハンマーヘッドシャークの群れが見えた。皆よりも少し遅れて泳ぎ出した私は、遠くからでしか撮影できず……。残念……。水温は28度、少し下がった。サーモクラインも少しだけ生じている。次のダイビングはチャンスを逃さないように集中力を切らさずにいこう。

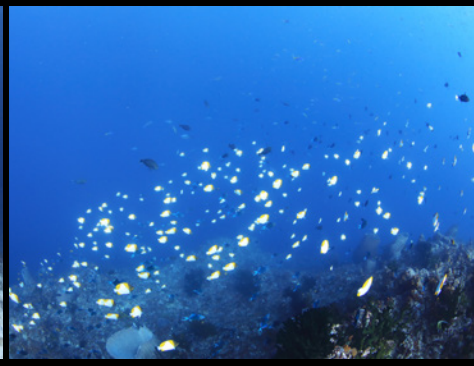
夢にまで見たバンダ海の景色

3日目の朝。ついにその時はやってきた。昨日までは、他のグループよりも早くエントリーさせてもらっていたが、その日は一番最後に出るボートに乗り込んだ。エントリーして、リーフに着くとみんなもう臨戦態勢で、水深25mから30mくらいで待っている。私は長丁場になると思い、18mくらいの海底で待った。昨日と同じように時間は過ぎ、1匹のハンマーヘッドシャークが頭上を泳いで行った。「今日は出るかも?」と、あまり根拠のない自信を抱いた。そして40分過ぎに、ジャクリンが指差すその先に、ハンマーヘッドシャークは見えるが、1匹だった。またみんなで水深を上げて待った。最初少し深場で待っていたグループは、もう10m近くまで水深を上げている。私は水深18mのまま（ナイトロックスで29%）。そしてもう一度ジャクリンが指差した。その先には、ハンマーヘッドシャークの群れが微かに見えた。これが最後のチャンスかもしれないと思い、全力でフィンキックして、ファインダー内にどんどんとクリアに浮かび上がるハンマーヘッドシャークにシャッターを切り続けた。数は20匹オーバー。もう少し水温が低くて、サーモクラインが現れていれば、もっと簡単に見れたのだと思う。（本当は25度くらいが良いそうだが、今季は29度あった。）それでも、自然相手なので毎回そう調子良くいくわけではなく、今回の私の撮影の仕方も参考に書かせてもらった。

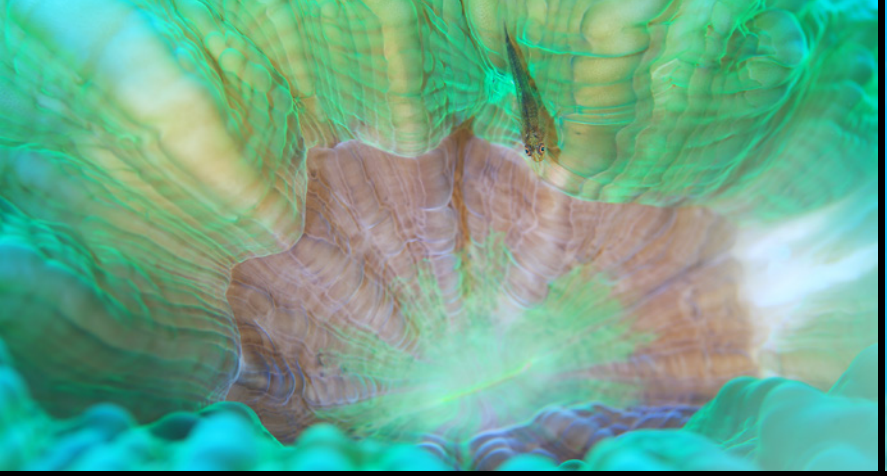
インドネシア・バンダ海 Indonesia
Banda Sea

生き物が湧くバンダ海の世界へ

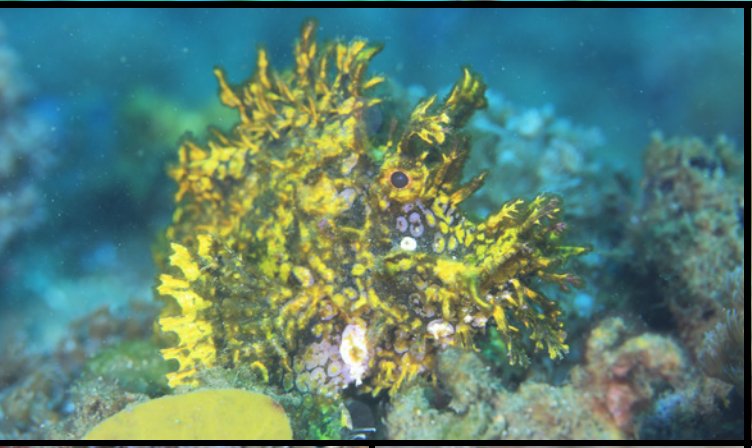
トータルで6日目の朝、潜り込んだのは「tanjung button」。左手にリーフを見ながら進んで行く。意外と急傾斜の地形が続いている。ブルーウォーター側に、ハンマーヘッドシャークの群れが見られる可能性があるということ。しかし、リーフではナポレオンフィッシュやカメ、カンムリブダイ、クダゴンベ、アケボノハゼ、そして豊かにヤギなどが群生しているので、ハンマーヘッドシャークばかりを気にしていられない。ハンマーヘッドシャークを気にしながらも、普通にファンダイブを楽しんでいく。浅瀬のサンゴが見事で、撮影にも熱がこもった。結局、大きなハンマーヘッドシャークを1匹見ることができたが、ポイント全体のイメージとしては、いろんな生き物が集う健全なリーフだった。2本目は「batu kapal 」へ。今回は15mmのフィッシュアイレンズを用いたので、よりワイドなバンダ海らしい表現で撮影できた。そして、最終ダイブとして、「pulau suanggi」へ。前半に私がハンマーヘッドシャークを見逃したところ。今回はリーフエッジでずっと待っていたけど、1匹だけの出現。他のチームのガイドさんは、20匹以上の群れを見たと言う……う……残念。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer



インドネシア・バンダ海 Indonesia
Banda Sea



ボロカサゴで始まり、ボロカサゴで締めくくる

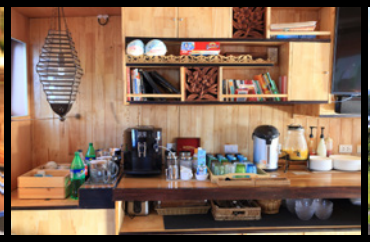
ダイビング最終日は、アンボンエリアに戻ってきてのダイビング。1本目の「jetty aer manis」は緩やかな傾斜の砂地のポイントで、マクロの生き物がわんさか。ウミテング、モンハナシャコ、ウミウシ、ジョーフィッシュ、イッポンテグリなどなど。サンゴが豊かなエリアではハナダイが多く群れていた。そして2本目は「Laha2」。ここもやはりマクロ天国。ピンクの優しい色をしたソフトコーラルや色合いの美しいサンゴの中にハゼを見つけたり、砂地で小さな生き物をたくさん発見。最後に、とても黄色いボロカサゴをガイドさんに見せてもらう。今回のトリップは、ボロカサゴからのハンマーヘッドシャーク。そして、ボロカサゴで終わる、そんな贅沢なトリップでした。

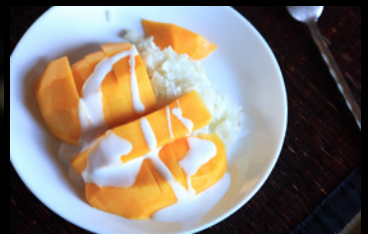
tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

今回、お世話になったパヌニーヨット号

パヌニーヨット号は、インドネシアのコモド、ラジャアンパットなど面白い海を順々に巡るダイブクルーズ船。昨年度からバンダ海クルーズをスタートさせ、注目を浴びている。全長42mの鉄船は、一昨年にリノベーションを行ったことで、また新しく生まれ変わった。3層構造で、ロウデッキには客室。2階はインドアダイニングと客室、後方にはダイブデッキ。共同のシャワー&トイレが5つ。トップデッキは、屋外&半屋外のサンデッキ、そして、フォト派ビデオ派には嬉しいカメラステーションがある。食事は、毎回本当に美味しい。元々、タイ船籍だったので、腕利きのシェフはそのまま乗船。クルーズの始まりはサンドイッチなど洋風だったが、後半はタイ料理がメインとなった。これがすこぶる美味しい。ダイブガイドも4名が乗船し、最大ゲストの22名をグループ分けする。バンダ海では、1日3本から4本のスケジュールで、潜水時間は60分。2隻のディンギーを使用してダイビングに向かう。ナイトロックスやレンタル機材を完備。また、クルーズの途中に、バンダナイラ島に上陸観察したり、漁民の島に訪問し、友好を築くなど、海も陸も見所がたくさん。

インドネシア・バンダ海 Indonesia
Banda Sea





tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島